

い聲でなこないに申しますわ。(節をつけて)ア、踊り子さん、イヤなんぢやいなア、揃ふたく踊り子が……」

「これお竹、なんと云ふ大きな聲を出してやね」

「オホ、ホ、マア奥さん御免やすや、その茂吉と妾が好い仲になりましたのん、一夜はまゝよ二度三度逢瀬が度重なりますと田舎は狭いもので村一ぱいの評判になりましたの到頭親の耳に這入りまして親の許さぬ不義淫奔をした何うの斯うのと申しましたが人が中へ這入つて呉れまして、今更出來たものを互に生木を割く様な事をして若し間違ひが出來たらいかん、寧ろ添してやつたら何うやと漸く家を一軒借つて貰ひまして二人が世帯をしましたが、其の當期は宜ろしいがものゝ半期も經ちますと男といふ者は浮氣なもので、村の簸の畑におさよ後家と云ふのが御座りまして其處の娘でおちよねと云ふ女と宜い仲になつてますねがな、それを聞いて腹が立つて腹が立つて辛棒が出來るのでどなり込みに行つて這入ろうと思つて途中まで行くのと向ふから二人連れて手を引いて來るやござりまへんか、妾が其れを見るなりこれ親つさん適には内へも歸つてやつたら何うやと云ふたら、このどた福奴内で愒氣がしたらいで此様處まで來て往來で男に恥をかゝしやがつてからにと妾を突飛ばしましたので妾は氣が逆上つて足元がおるす、横手の井地川へデヤブンと陥りまして上つて來て噎くじやふをしたら鼻の穴から鱈が三疋も飛んで出ました。内へ歸ると殴るやら蹴るやら酷い目に逢はさ

れましたんで親に話をしましたら其様な悪性な男に添はして置いたら末が恐ろしい今の内に別れたら何うやと別れ話をしたら、男と云ふ者は毒性なもので手切れおこせ、退代おこせのと申しますので村にアゴタの輕平と云ふて口の輕い男がござりますので其の男を頼んで大納言三升とじんき綿二百目を出して別れ話をつけて貰ひました。奥さん此様な目に逢ひますよつてに、ほんまに仰つしやれや、仰つしやらんといきまへんで」

「マアお竹、能う云ふて呉れてやつた、此簪な、此間小間物屋から持つて來はつたんやが玉が大きいて妾には何や若返つて居る様なので貴女常の頭搔きに差しとう」

「マア奥さん、滅相な其様な結構な簪を女中が差しましたら頭が腫れますがな。ア、左様でござりますか、かへつて辭退は失禮に當りますでお言葉に甘へまして頂戴いたします。ほんまに仰つしやれや」

「オイ一遍臺所を見てみ、お竹奥さんの咽喉の下へ這入つてよる」

「とうない狭い處へ這入りよつたんやな」

「そうやない、奥さんに仰つしやれくと云ふて暫くの間に二三十圓の仕事をしよつた」

「とうないぼろい事をしよつたんやな、私も臺所へ這入つて仰つしやれと云ふて來たるかしらんで」

「お前はあかん、最前こんと云ふたやないか」